



秋田蘭画の
あけぼの
仙北市



極上うす焼もちし「秋田蘭画のあけぼの」
(63枚入り、税込み3,240円)



PREMIUM吟醸生もちし「解体新書と小田野直武」
(4袋入り税込み2,160円)

秋田生まれの銘菓・もちこしが、やはり江戸時代に秋田で生まれた秋田蘭画を身にまとった、いわば本県固有の食文化と芸術文化が一体化したのがうす焼もちこし「秋田蘭画のあけぼの」だ。

細長い3つの内箱と、それを収める外箱に描かれているのは全て、平賀源内に画才を見出された角館生まれの天才絵師で、秋田藩主佐竹曙山(1748〜85年)らと秋田蘭画を開花させた小田野直武(1749〜80年)の作品。

外箱には日本画・洋画折衷の秋田蘭画らしさにあふれる代表作の「不忍池図」。内箱には唐の皇帝・太宗が真ん中に、左右には花鳥が描かれた「唐太宗花鳥山水図」が鮮やかに印刷されている。

原画はいずれも国の重要文化財で、秋田市のブランドディングディレクター野崎文隆さんの協力により、所蔵する県立近代美術館の許可を得て使用している。

商品化は角館のもろこし製造販売店・唐土庵の創業者で現在は相談役の佐藤勇悦さん(81)のアイデアだ。

「観光地・角館の菓子店として

固有の食文化と芸術文化が合体

他県に誇れるお土産を作りたかったのです」と佐藤さん。そこで注目したのが若くしてわが国初の医学翻訳書「解体新書」の挿絵を任せられた地元先覚・小田野直武だった。

「直武の描く秋田蘭画は唯一無二の芸術。これに合うもちこしも他にない極上なモノでなければ」と試行錯誤を重ね、直武生誕270年の2019年に発売した。

原材料は品質が安定している北海道十勝産の最高級小豆。これを、85%削り中心部15%のみ使用し、食べやすい薄焼きにするこだわりよう。唐土庵が展開する20アイテムのもろこしのフラッグシップとなっている。

味は、白さが特徴の「プレーン」、ゆでた小豆汁を加えた「さらしあん」、抹茶を加えた「抹茶」の3種類。内箱1本に各味7枚、計21枚収めている。

もちこしにありがちな硬さは感じられず、上白糖や和三盆や蜂蜜などによるあっさりした甘味が特徴だ。

秋田蘭画と並ぶ直武の偉業

である「解体新書」をモチーフにした「解体新書と小田野直武」も同時発売した。解体新書を模した紙箱に収まるのは、焼き目を入れず軟らかさが特徴のPREMIUM吟醸生もちこし4袋。角館の桜の花びらをイメージして、金粉をあしらった高級感が漂う。

1957年の創業以来もちこし一筋だった佐藤さんが、時間的余裕を見出しては地元の歴史文化継承を目的とする団体「ルネッサンス・角館」などで積み上げた知識と、鍛え上げたもちこし製造技術の結晶ともいえる

両商品。直武の子孫である直さん(故人)の揮毫による商品名も誇らしげだ。



唐土庵 本社工場店
〒014-0347 仙北市角館町小勝田下村21
Tel.0187-54-3108(代)
<https://www.morokosian.jp/>
※本社工場店は3月まで休業

角館駅前店 〒014-0369 仙北市角館町上菅沢402-3
武家屋敷店 〒014-0331 仙北市角館町表町下丁17
さくら並木店 〒014-0359 仙北市角館町北野124-2